吹田市立博物館 平成２９年度夏季展示「自然のふしぎをあそぼう」

藤田和則、檜田清治、筏隆臣（吹田市立博物館夏季展示実行委員会）
池田直子（吹田市立博物館学芸員）

はじめに

吹田市立博物館では、毎年夏休みに、吹田の自然と環境をテーマとした展示に取り組んでいます。展示やイベントを企画するのは、公募した市民による夏季展示実行委員会です。

当館周辺には紫金山公園になっている里山が残されており、日本全国の動植物の生育状況を調査するモニタリング 1000 と呼ばれる調査地の１つに選ばれています。平成 29 年度は、紫金山の自然を紹介しながら、「自然のふしぎ」「あそび」をキーワードに、私たちの身の回りにあるさまざまな自然の不思議を取り上げました。

展示内容

展示は次のようなコーナーから成っています。

紫金山のふしぎ／ヒメボタルのふしぎ／虫の成長のふしぎ／虫の見え方のふしぎ／クモの巣のふしぎ／タネの形のふしぎ／火山灰のふしぎ／なにわの伝統野菜／淀川水系の魚たち／自然はっけんシート

展示の一部を紹介します。

動物標本（兵庫県立人と自然の博物館所蔵）

「紫金山のふしぎ」では、紫金山にかつて生息していた動物であるキツネやタヌキなどの標本（兵庫県立人と自然の博物館所蔵）や、紫金山で見られるカモやカラスなどの野鳥の標本（高槻市立自然博物館あくあぴあ芥川所蔵）を展示しました。また、「タネの形のふしぎ」では神戸大学名誉教授武田義明氏より提供された様々な形のタネの標本を展示し、タネを飛ばす体験コーナーを作りました。

「虫の見え方のふしぎ」コーナーでは、肉眼ではそれほど差がないモンシロチョウのオス・メスがどんな風にみえるか、ブラックライ

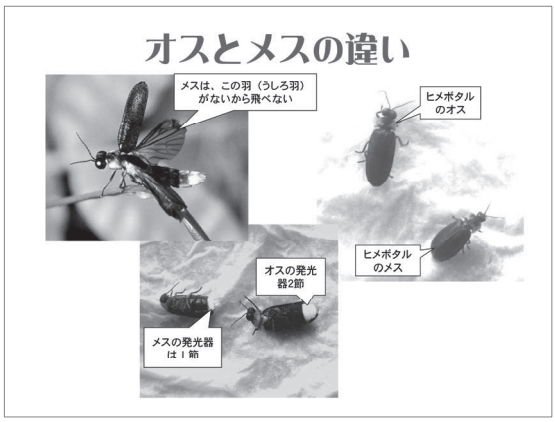
ブラックライトによる「虫が見る世界」

クモの巣体験コーナー

トを使って再現してみました。

「クモの巣のふしぎ」コーナーでは、巨大クモの巣を作り、昆虫をアップリケにしたミトンをクモの巣にはりつける体験コーナーを作りました。ミトンを手にはめて巣にくっつけるのを想定していたのですが・・・。ミトンを投げつける子どもが続出。いわく「だって虫は飛んでるから」。クモの巣の前では、テントウムシやチョウチョ、カブトムシに変身した子どもを保護者が写真に収めていました。今回の展示ではクモの巣コーナーが最も人気がありました。

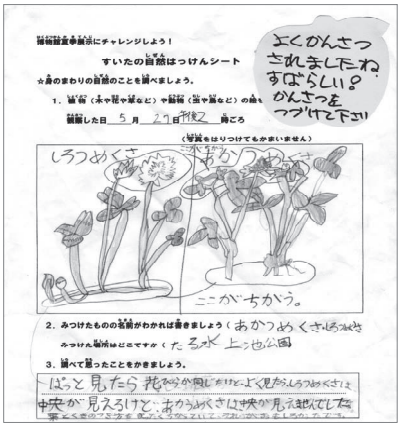
「ヒメボタルのふしぎ」コーナーでは、吹田の千里ニュータウンの緑地帯に生息するヒメボタルを紹介しました。標本やジオラマ模型、解説パネルなどで、ヒメボタルの特徴を解説しました。吹田ヒメボタルの会が市内のヒメボタルの保全・保護に取り組んでいます。



ヒメボタルのジオラマ模型（左）と解説（右）

「すいた自然はっけんシート」は、吹田市内の小学校４年生に身近に見つけた自然を絵に描いてもらうものです。平成２７年度から取り組んでおり、今年は１４３人の応募がありました。発表会のイベントでは７人が発表してくれました。保護者が心配するなか、皆堂々と発表してくれました。なかには、シートを提出したあと、さらに深く調べたことを発表してくれた子もいました。発表した子どもたちには、自信のつくいい機会になったのではないかと思います。

すいたの自然はっけんシートをロビーに展示したようす



すいたの自然はっけんシート
実行委員がコメントをつけた

おわりに

この展示では、様々な実物標本や写真を展示するとともに、子どもたちが体験などを通じて理解しやすいよう工夫しました。実行委員は必ずしも自然科学の専門家ばかりではありませんが、自然系博物館や地域の自然保護団体などの協力をえながら、展示やイベントを企画しています。

平成30年度も7月21日（土）～8月26日（日）の予定で、夏季展示を開催します。楽しい展示やイベントになるよう、企画を練り始めたところです。ぜひご来館ください。